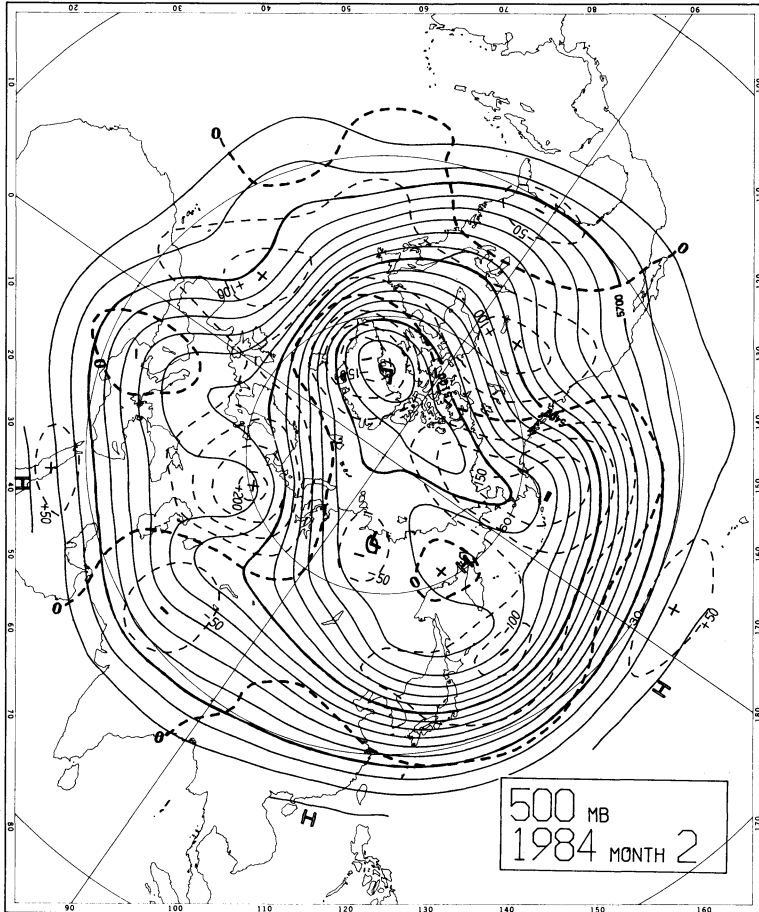


月平均 500mb 天気図. 1984年 2月.

(破線は平年からの偏差. 単位 m)



極東に大きく寒気南下. グリーンランド上には強い極うずがある。循環場は2波数型(60°N帯の波数分析では波数1と2がほぼ同程度に卓越)で、グリーンランド～極東にトラフの軸が伸び、日本付近は大きく負偏差でおおわれている。大西洋の正偏差も強く、その下流にあたるウラル山脈付近にブロッキング型の高圧場が形成されている。1月にシベリアを広くおおった正の偏差場は消滅し、またインド北部には定常的な低圧場が形成されている。

日本付近の流れは、極の寒気が流れこみやすい東谷型のパターンとなっている。日本海側では断続的に寒気が入り大雪となるとともに、太平洋沿岸でも東シナ

海低気圧による2度の大雪に見舞われた。寒さは全国的に非常に厳しく、特に中部日本、西日本は1947年以来の寒い2月となった。

負偏差場の広がりにはほぼ対応して、シベリアが一転して寒冬となったほか、インド、華南、日本、アラスカが低温域となっている。

アラスカにあった尾根はゆっくりと東進してカナダに移った。太平洋の負偏差場はさらに広がり、アラスカもシベリアと同様一転しての寒い冬となった。

太平洋中部の正、アラスカの負、カナダの正、そしてグリーンランドの負とつながる特徴ある偏差パターンがみられる。
(上野達雄)